

令和7年から全面転換！大豆新品種「ちくしB5号」を普及拡大していきます！

【研究のポイント】

大分県ではこれまで「フクユタカ」を栽培していましたが、豆腐加工適性が高いものの、収量・品質が安定しないことから、新たな品種が望まれていました。
水田農業グループ内や現地で生産者の協力を得ながら、有望な品種を比較する「奨励品種決定調査」を実施して「ちくしB5号」を選定しました。「ちくしB5号」は福岡県が育成した品種で、「フクユタカ」より倒伏しにくく、青立ちの発生が少ない特徴を持っています。

1 栽培特性を確認

令和元年から宇佐市の水田農業グループを中心に品種比較や栽培試験を行いました。「ちくしB5号」は「フクユタカ」より成熟期が早いことや倒伏および青立ちの発生が少なく栽培性が優れることがわかりました。

農林水産研究指導センター（宇佐市）における「ちくしB5号」の生育、収量および品質特性

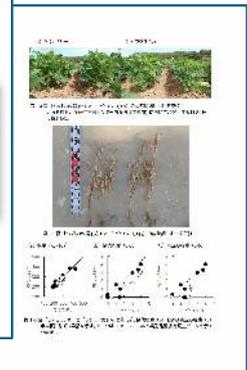
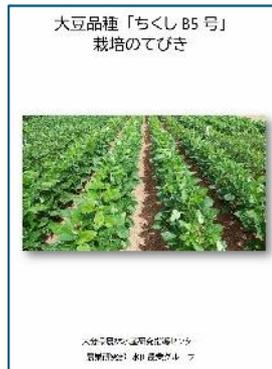
播種期	品種	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	主茎長 (cm)	倒伏 程度 (0-5)	青立ち 程度 (0-5)	収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	検査等級		粗タンパク 質含有率 (%)
									大粒 (1-5)	中粒 (1-5)	
早播	ちくしB5号	8/4	10/28	59	2.1	0.9	259	29.1	2.8	3.7	43.7
	フクユタカ	8/3	11/3	65	2.7	1.9	279	28.3	2.2	2.9	43.7
標準播	ちくしB5号	8/24	10/31	57	1.0	0.6	219	26.5	2.1	3.2	44.0
	フクユタカ	8/23	11/4	59	0.9	1.5	220	26.7	1.8	2.7	44.4

データは、2019～2023年の平均値を示す。早播の播種日は6月5日～6月15日、標準播は7月6日～7月20日である。倒伏および青立ちの発生程度は、無(0)～甚(5)で示す。検査等級は1等(1)～3等(3)、特定加工用合格(4)、規格外(5)で示す。

【研究の成果】



「ちくしB5号」(左)と「フクユタカ」(右)の成熟期における草姿



2 奨励品種へ採用

優れた栽培特性が評価され、「ちくしB5号」は令和7年に大分県の奨励品種に採用されました。奨励品種に採用されたことで、県内での採種（種子を生産すること）事業が可能となり、翌年度以降に必要な種子を計画的に生産できるようになります。

3 「栽培のてびき」を作成

令和7年での「フクユタカ」から「ちくしB5号」への全面切り替えに向けて、技術普及指導のために「栽培のてびき」を作成し、県内の普及指導員へ配布しました。

4 令和7年は全面切り替え

全面切り替えにあたり、普及指導員は栽培講習会等を開催し、生産者へ栽培特性の説明を行いました。大きな混乱もなく作付面積は808ha（暫定値）となり、台風等の気象による影響も少なく、無事に収穫を迎えることができました。

【生産者の声】

例年と栽培管理のやり方は変わらないが、「ちくしB5号」は全体的に栽培しやすかった。「フクユタカ」に比べて成熟が早いため、収穫作業が早く終わり、麦の作業への影響が少なかった。莢の付き方が良く（最下着莢高が高く）、コンバインによる収穫がしやすかった。

(農) 蜷木 啓農 代表理事 岡部氏

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム
TEL：0978-37-1160（問い合わせは企画指導担当へ）
住所：大分県宇佐市大字北宇佐65